

模擬原爆投下先 摩耶山か

太平洋戦争末期の1945（昭和20）年7月、米軍が神戸市など各地に落とした模擬原爆「パンプキン」について、研究を重ねる大学院生がいる。神戸大学大学院2年の西岡孔貴さん（26）＝大阪市。神戸では米軍や日本側の資料を調べ、摩耶山の投下地点を推定。現地を調査した。投下から79年となった先月24日には神戸市内で講演会を開き、「原爆は神戸ともつながっている。史実を知ってもらい関心を高めたい」と訴えた。

（杉山雅崇）

神戸大大学院の西岡孔貴さん



2023年末、摩耶山で現地調査した西岡孔貴さん
＝神戸市灘区（西岡さん提供）

不明着弾地を調査「つながり知って」

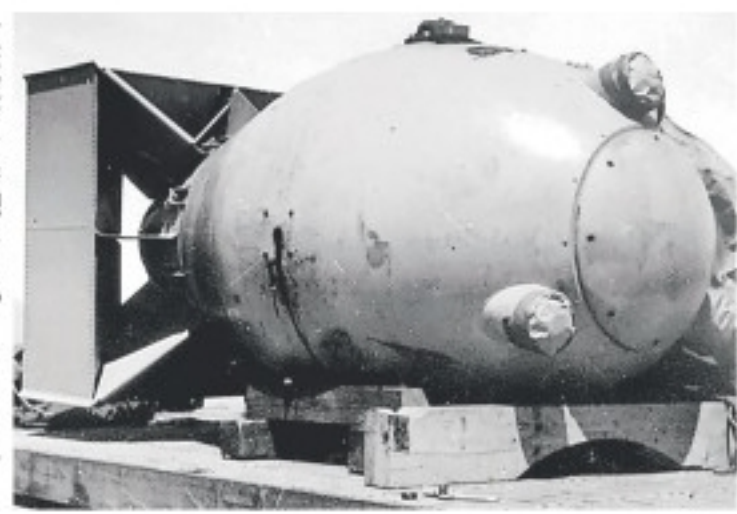
戦後
79年
ひょうご

「79年前の今日、神戸市内に計4発の模擬原爆が投下され、死者が出ました。まずは黙とうしましょう」

7月24日昼。投下日に合わせて西岡さんの講演会が同市灘区で開かれ、参加者16人が祈りをささげた。西岡さんは、研究で分かった神戸の模擬原爆について図やイラストを使って詳しく説明した。

西岡さんが模擬原爆に興味を持ったのは、大学1年だった7年前。広島平和記念資料館で展示を見て、神戸など一部で投下された具

模倣原爆「パンプキン」(ロスマス国立研究所蔵、工藤洋三さん提供)



神戸市内に投下された模倣原爆「パンプキン」の着弾地点

体的な場所が分かっていることを知った。その後、研究者と交流して関心が高まり、2022年から自らも研究を始めた。

神戸市には、4機のB29爆撃機により、計4発の模倣原爆が投下されたことが分かっている。そのうち1

模倣原爆「パンプキン」長崎に投下されたブルトニウム型原爆「ファットマン」と同形・同重量の大型爆弾。通常の爆弾より火薬が多く、威力が大きかった。主に原爆投下の訓練に使われ、1945年7月20日から8月14日まで、投下の候補地とされた広島や京都などの周辺都市が目標となり、死者400人超、負傷者1300人超の被害が出た。神戸では十数人が死亡したとみられる。そのうち46発については着弾地点が判明しているが、神戸に投下された1発を含む3発はどこに落ちたか分かっていない。

機は、機体番号の推定から広島に原爆を投下した「エノラ・ゲイ」とみられるという。

これまでの研究で、三菱重工神戸造船所（中央区）、川崎町（兵庫区）、山陽電鉄東須磨駅北側（須磨区）の3カ所は判明していた。あと1カ所は。当時、中央区から灘区にかけて施設があった神戸製鋼所が狙われたのは米軍資料から分かっていたが、実際の投弾地点は不明とされていた。

鍵は当時の警防団副団長が書いた日記にあった。「（神戸）製鋼所付近及北方山中に投弾」。記述を基に戦後すぐ撮られた航空写真を探したところ、摩耶山で地面が不自然にむきだしになっている場所を見つけた。

昨年11、12月、研究者らと登山道もない山中に分け入り、探知機で金属片8個を見つけ出した。

西岡さんが共同代表を務める「パンプキン爆弾を調査する会」は、模倣原爆の破片が確かめるため、金属の成分を調べようとしている。多額の費用がかかるため、目標金額を100万円とするクラウドファンディングを実施している。

「神戸にもエノラ・ゲイが来ていた。原爆投下は、神戸の人にとってもよそことではない」

和学習で戦争を学んだ際、「自分には関係ない」と敬遠する場面を見たことも気になっているといい「若い自分が模倣原爆の研究成果を世に出すことで、より多くの人に戦争について考えるきっかけにつながってほしい」と話している。

